

## 第2学年社会科 単元名「中部地方—活発な産業を支える人々の暮らし—」

### 1. 目標

- 中部地方の地域的特色を、産業を中心とした考察を基に多面的・多角的に考察できる。  
【社会的な思考・判断・表現】
- 中部地方の地域的特色に関する各種の地図や統計、写真などの資料を収集できる。  
【資料活用の技能】
- 中部地方について、自然環境や人口、産業などの特色をおおまかに捉えることができる。  
【社会的事象についての知識・理解】

### 2. 指導計画（5時間扱い）

見通す 取り組む 振り返る	①時	今後の学習の見通しを理解し、単元を貫く課題を設定する。	
	②時	中部地方の地理的特色を理解する。	
	③・④時	中部地方の産業の特徴を理解する。（ジグソー学習）	← 学び合いの例
	⑤時	中部地方と世界、他地域との関係を理解する。	

### 3. 第4時について

- 目標 中部地方の特色について産業を中心にして考察し、思考し、表現する。【思考・判断・表現】

見通す 取り組む 振り返る	活動①	前回の授業の内容を確認し、本時の学習課題を確認する。 課題 産業を中心とした中部地方の特色を捉えよう。
	活動②	エキスパート活動を行い、個人の課題に取り組む。 東海地方、中央高地、北陸地方の3つのグループに分け、それぞれの地方での産業の特徴を確認する（地理的要因や歴史的要因、社会的要因などを含めて、多面的、多角的に考察する）。
	活動③	クロストークを行い、グループ内で意見を交換する。 エキスパート活動で学んだことに基づいて、クロストークを行い、考えを深め合う。また教え合い活動を通して、より深い学びにつなげる。 S1：東海地方は、工業が発達しているよ。 S2：北陸地方は、伝統工芸があるよ。米の生産もさかん。 S1：なんで伝統工芸があるの？東海地方にはなかったよ？ S2：それは冬の季節、雪がたくさん降るから農業ができなくて、副業として始めたのがきっかけで今現在でも続いているみたい。 S3：中央高地では、昔と今で生産しているものが違うみたい。 S1：東海地方も違ったかもしれない。 S2：なんで違うの？
	活動④	中部地方の特徴をグループの意見を活用しながら、一文にまとめる。 T：中部地方の特徴を一文にまとめよう。 S1：その地域の特徴と自然を生かして産業を行っている地域。 S2：日本を代表する産業が存在する地域。 S3：3つの地域によって異なるが産業がそれぞれ発展している地域。
	活動⑤	今日の学習を振り返る。 自己評価シートを活用し、個人で授業の振り返りを行う。

#### 4. 学び合いの例について

【活動①】：イメージマップの活用】

(手だて)

##### ①単元を貫く課題の設定

単元を通して、達成すべき課題を明確にする。その単元を貫く課題に向かって1時間ごとの授業で迫っていく。



##### ②生徒の考え、意見を引き出す。

イメージマップを活用して、生徒の持っている考え、意見を引き出す。またグループで行うことにより、他者の意見や考え方を基にして、多面的、多角的に物事を考察することができるようにする。授業に意欲的に参加するきっかけを作る。ホワイトボードを活用し、考えを可視化する。さらに全体で共有し、生徒の意見や言葉を基にして、課題を設定していく。

(留意点)

- 様々な意見が出るが、ねらいに迫るような内容を話し合い、考えることができるようにする。

【活動③・④】：ジグソー学習】

(手だて)

##### ①自分の意見や考えを持たせる。

エキスパート活動を行い、個人で考える時間を確保する。資料を基にして、地理的要因、社会的要因の視点等から自分の意見や考えを持つ時間を確保する。また発展的な課題を工夫するなど、個に応じた対応をし、学習が進むような工夫を行う。



##### ②クロストークを行い、教え合いを行う。

エキスパート活動で習得した知識、考えを基にしてクロストークを行う。生徒同士で教え合い、知識の取得向上や、表現力、思考力を身に付けさせる。教え合い活動を通して、多様な考えに触れ、多面的、多角的に考え、自分の考えや意見をよりよいものにしていく。

##### ③個人に戻す。

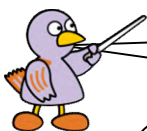
ジグソー学習の後に、個人で考える時間を確保し、個人の考えを深める時間を確保する。

(留意点)

- ジグソー学習において、生徒一人一人が活躍できる場面を作るために、学習の習熟度などを考慮してグループの編成を行う。

## 単元名 「中部地方—活発な産業を支える人々の暮らし—」

### 取組のワンポイントアドバイス

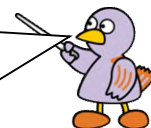


こうすればうまくいくよ！  
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

話し合い活動を繰り返し行うことで、生徒同士の中で多様な意見が出るようになりました。「わからない」、「なぜ」を言える環境が形成されてくると活発な学び合い、話し合い活動に繋がっていきました。上手くいかなくても、理由や目的を明確にして活動を行わせることが次のステップに繋がっていきます。

また思考の可視化をすることにより、意見の交換や発表など質の向上に繋がりました。

当初は、目標に合わせた話し合いや、資料の活用を上手くすることができませんでした。研修等を通してベテランの先生方から改善の手助けになるヒントをもらったり、学んだりしたことを活用したりしながら、試行錯誤を重ねて、少しずつ学習の質の向上に向けて取り組みました。



- ・学び合い活動の中で、全ての生徒が参加できるようなグループの形成やペアの形成がなかなか上手く作ることができませんでした。生徒の学習段階や日々の授業の様子を考慮して形成するようにしました。
- ・エキスパート活動においては、生徒の学習段階に応じて課題を設定しました。ワークシートは、社会が苦手な生徒でも考察することができるように、必要最低限の資料を活用して学習を行えるようにしました。また、文章でまとめる、課題を多く設定し、書く力、表現力の育成にも繋がるように作成しました。

今回の単元を通して、考えの根拠となる資料を明らかにして話し合いを行うことができるようになった生徒や、統計資料や雨温図を正確に読み取ることができる生徒が増えました。話し合い、学び合いを通して主体的に学習に参加する生徒、社会科に関心を持つことができる生徒が増えました。

また、相手を思いやる行動や、相手の立場になって考えた言葉がけができるようになった生徒も増えました。

